

クツワムシの体色について

堀田 久²

筆者は1996年8月末に、津名町佐野の知人よりクツワムシの雌雄をもらって飼育したところ、10月初旬になって産卵し、1997年6月に孵化した。クツワムシには緑色型と褐色型があることが知られているが、今回の飼育では、特に体色の変化に留意して観察したので、ここに報告しておきたい。

- 1996年の津名町佐野産の個体は、雌雄とも褐色型であった。
- 1997年6月8日から6月20日にかけて孵化したのは15個体であったが、1令幼虫はすべて緑色で、個体差は認められなかった。
- 2令になると、褐色に薄茶がまざった個体が現れ、その個体はやがて全体が薄茶色に変化して、褐色型であることが明確になった。一方緑色型の個体は、1令のときと比べてほとんど体色に変化がなかった。
- 孵化した15個体のうち、褐色型は8個体で、緑色型は7個体であったが、その後の脱皮に失敗するものが多く、生き残って8月末に成虫となったのは、褐色型の雄1頭と、同じ褐色型の雌1頭のみであった。
- 『鳴く虫の博物誌』松浦一郎著(文一総合出版)によると、クツワムシの色の違いは生まれつきでなく、成虫になるときに決まるとあるが、筆者の観察では、2令のときに緑色型と褐色型の違いが現れた。
- このたびの観察は、上記のように対象となる個体数こそ少なかったが、成虫になるときではなく、2令のときに体色が決まったのは事実である。筆者はクツワムシの体色について、上記以外の資料を知らないので、ご教示いただければ幸いである。

(ほりた. ひさし)

ヒナカマキリの観察記録

堀田 久²

筆者は1990年に、洲本市安乎町の自宅内で、ヒナカマキリ *Iridoptyx maculatus* を採集したが(本誌37号)、その後も自宅付近で数回本種を確認している。1997年には下記のように3個体を採集し、そのうちの1頭を飼育したので報告しておく。

1997年9月29日	1♀	安乎町北谷(自宅内)
1997年10月10日	1♀	安乎町北谷(自宅横のミカン畑)
1997年10月15日	1♀	安乎町北谷(自宅内)

10月15日に採集した個体は、水槽の底に土を入れて飼育し、餌としてヒシバッタを与えた。ヒナカマキリは2日に1回くらいの割合でヒシバッタを捕食し、土の上よりも水槽の蓋の上に静止していることが多かったが、10月18日には水槽の蓋の内側に産卵し(卵塊